

令和8年度予算見積調書

課室名: 河川環境課
担当名: 総務・管理担当
内線: 5133

(単位: 千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
P114	インフラ日常管理DX推進費(河川)			一般会計	土木費	河川費	河川総務費	河川管理費	
事業期間	令和6年度～ 法 令	根拠	河川法第9条	針路	08	支え合い魅力あふれる地域社会の構築	SDGsゴール 8, 9, 11, 12, 13	SDGsターゲット 8-2, 9-1, 11-1, 12-1	
<p>1 事業概要 道路・河川については、道路法、河川法に基づき適切に管理しなければならないため、地域機関における道路・河川パトロールの実施、地域住民からの苦情や要望受付等、現地での対応が不可欠である。 パトロール日誌や苦情報告書の作成では、位置情報と連携させる必要があるため、現場の写真や位置図の添付、記録データの管理等を手作業で行っていたが、令和7年6月に道路・河川維持管理支援システムを導入し、運用を開始した。 インフラ日常管理業務のさらなるDXを推進するため、本システムの活用により情報の一元化を図り、業務の効率化と、県民サービスの向上を目指す。</p>									
<p>2 事業主体及び負担区分 (県10/10)</p>									
<p>3 地方財政措置の状況 なし</p>									
<p>4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×0.2人=1,900千円</p>									
<p>5 事業説明</p> <p>(1) 事業内容 インフラ日常管理DX推進費(河川) 9,125千円 (事業全体額 21,650千円) インフラ日常管理(道路・河川)の「情報の一元管理」「迅速な情報連携」「情報の見える化」を図るため、道路・河川管理を支援するシステムの運用保守を行う。</p> <p>(2) 事業計画 ア 事業実施時期 令和7年度～ イ 道路・河川維持管理支援システムの機能 (ア) 道路・河川パトロールの巡回ルートや損傷箇所、不法投棄等の記録をスマートフォンアプリで行う。 (イ) 現場で記録した情報に加えて、職員が事務所で受けた情報をクラウド上で記録することで、リアルタイムで県庁、各県土整備事務所、現地パトロールとの情報共有を可能にする。 (ウ) パトロールや県民からの苦情記録で蓄積されたデータをヒートマップ等で可視化する。 ウ 事業実施箇所 12県土整備事務所、総合治水事務所、道路環境課、河川環境課</p> <p>(3) 事業効果 インフラ日常管理システムの導入により、職員の業務時間の削減、パトロール業務の効率化など、業務の改善が図られる。 【活動指標(アウトプット)】 書類作成時間の削減、データ集計事務の効率化(1人あたり月3時間) パトロール日誌作成時間の削減(年間2,673時間) 【成果指標(アウトカム)】 インフラ日常管理業務のDX化が進み、計画的なパトロールが実現することで異常箇所の早期発見、早期対応など道路・河川管理利用者の安心・安全が確保されている。また、データの蓄積によるインフラ管理の高度化により、県民サービスが向上する。</p> <p>(4) 県民・民間活力・職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 システムを使用して、十分なパトロール時間を確保し、現場対応のスピードアップを図る。</p>									

予算額		財源内訳					一般財源	前年との対比
決定額	9,125						9,125	△235
前年額	9,360						9,360	

事業内訳書

事業名	インフラ日常管理DX推進費（河川）		
単位事業名	インフラ日常管理DX推進費（河川）	予算額	9,125千円

○歳入

(単位 : 千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	9,125	△235	
合計	9,125	△235	

○歳出

(単位 : 千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
委託料	9,125	△235	システム保守管理業務委託
合計	9,125	△235	